

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079600401
法人名	有限会社 英
事業所名	グループホーム なごみの里
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原2185-1 (電話) 0947-72-3939

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成21年1月21日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造耐火造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円		その他の経費(月額)	(水道光熱費) 15,000円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)		有りの場合 償却の有無	有(3年間)
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低 59 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日高医院 / うえだ歯科医院 / 川崎町立病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームなごみの里は接遇の礎を「認知症高齢者に、より質の高い社会生活を送ってもらうため、敬意と誠意を持って最大限の努力を払う」としており、職員は日々の個人の暮らしを大切に、そしてお互いがふれあうことで安全・快適かつ穏やかに暮らしていただけるよう心がけている。広い敷地は日当たりがよく、季節の花や家庭菜園の野菜が大きく育ち、みんなの愛犬の姿もあり、周りの木々は紅葉し風に揺れている光景は童謡「里の秋」を思い浮かべる。住まいの特徴としては、何よりも共用部分がゆったりと設計されており、ホームの床は全体にカーペットが敷かれ、入居者の身体的負担の軽減・安全面への配慮がなされている。また、職員と入居者が協同で作った作品や行事の写りが飾られ、季節感を感じる工夫もある。居室は大きな窓で日当たりがよく、個々の身体的条件に合った備品が設置がされ、プライバシーも十分に配慮されている。また、医療面においても主治医への通院支援を定期的に行っており、ホームとの連携が充分に図れているのも大きな特徴といえる。開設5年を過ぎ、職員は初心を忘れることなく入居者の生活支援と親しみある人間関係の構築に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前年度の評価では、家族への定期的な報告についての充実が指摘されており、今年度より「なごみだより」を発行し、家族へ送付することで大変好評を得ている。また、地域との交流を活発に行い、入居者が地域の人たちとのふれあいを持てるように地域の行事参加を多く持つように努めている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホームの理念については開設時より5年を経てるので現在の状況に合った内容にしたいと考えている。職員全員で検討し納得できる理念作成を今年度の課題としている。権利擁護については現在すぐに必要とする状況でないため、積極的な学習が持てなかったため研修会に参加したり、他のグループホームの事例などから学んでいこうと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回運営推進会議のメンバーによる会議を行っている。議題はホームの報告事項のみではなく、地域行事への参加についてや災害対策・感染症対策など多様な内容について話し合い、様々な立場からのアドバイスを得て、運営推進会議を活かした取り組みを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご意見箱などは玄関に設置しているが、ほとんど利用されていない。家族の面会時には、必ず入居者の状況報告や要望などを聞くようにしている。また、他の入居者とも気軽に話をしてもらい、ホームでの暮らしを多面的にとらえることで家族が安心できるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との連絡調整については子供会・老人会・隣組の会合などに必ず経営者が参加し、入居者が参加できる行事について情報を把握し、協力を得て、地元の人々との交流を高めるように努めている。また、近隣の農家より野菜や果物などの提供があり、徐々にではあるが、近隣の方たちとの付き合いも広がっている。

(株)アーバン・マトリックス

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設より5年目を迎え、法律改正や状況の変化などで職員と共に再度ホームの理念について考えていく方向にある。そして、そのことを今年度の検討課題として挙げている。	○	平成18年度の介護保険の改正により、地域密着型サービスの役割が求められており、時代や状況の変化なども含め、それに適した理念の検討が求められている。職員全員で考えることでみんなで共有でき、素晴らしい理念が誕生すると考えられる。是非、目標達成に向けて頑張ってもらいたい。
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りの際に理念を読み上げ、新たな気持ちで日々の支援に取り組んでいる。また、ミーティングの機会を利用して理念の話し合いを行い、経営者からも定期的に理念の話をしてもらい、理念にもとづいたケアやサービスが提供できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事である「神行祭」や「こども神輿」などの見学に出かけたり、ボランティアの方の来園で職員以外の方々との交流を大切にしている。隣近所の農家の方より野菜をいただいたり、犬の散歩時に声をかけていただくなど、日常的な交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価を活かした取り組みとして、今年度より家族への定期的なお便り「なごみだより」を入居者と職員共同で作成するように工夫している。入居者も喜んで色づけしたり、封筒に入れたり、お便り作成に喜んで参加されている。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回、町職員・民生委員・家族代表などによって開催している。内容はホームの状況報告だけでなく、地域との交流についての行事参加や運営に関する助言を得ており、運営推進会議を活かした取り組みを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の生活をホームだけでなく町役場の理解や支援を得て解決するように心がけている。町職員やケースワーカーなどに相談したり、解決策をアドバイスしていただいている。ホームが抱える問題をホームだけでなく、行政との連携による解決を見出すなど、連携を活かした取り組みを行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見人制度については現在該当者がいない。そのためか支援についての具体的・積極的な学習ができていないので、今後に向けて学ぶ機会を計画・実践していただきたい。	○	入居者が安心して生活できるように高齢者に対する人権や権利擁護などの制度については職員全員が理解しておくことが大切なため、是非、研修の機会や事例を通しての知識を深めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な報告としては「なごみだより」を作成し、家族へ発送している。また、家族の面会時に入居者の健康状態や近況報告などを行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表に出席していただき、入居者の立場からの意見を運営に反映していくように取り組んでいる。また、普段から入居者・家族とのコミュニケーションを図り、意見や意向があれば、その都度、会議を開き、職員と検討している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームは1ヶ所なので異動はない。離職も少ないが、その場合には新任者の就業1ヶ月を研修期間としているので、その期間に引継ぎを行い、入居者へのダメージを最小限に防ぐように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用については特に制限はない。職員一人ひとりの話し合いの機会を設けたり、勤務について職員の得意分野が活かされるように配慮している。また、休憩時間にはリラックスできるように休憩室も設置している。職員との食事会や誕生会なども行い、職員みんなで入居者を支える関係を大切にしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権教育については高齢者の尊厳に関わる大切なテーマであるので、職員の新任教育時に具体的に指導している。現任者についてはミーティングなどの機会あるごとに話し合っている。今後も市町村の研修会にも参加し理解を深めていきたいと考えている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務ではミーティングなどお互いの技術アップを行っている。職員の外部研修についても参加しているが、今後は研修内容を共有するためにも内部での伝達講習を行っていききたいと考えている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの職員と勉強会を行っている。今年度は医療面の研修を実施し、良い成果を得ている。また、お互いのホームとの交流や意見交換なども行い、グループホーム同士の連携を高めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅や入院先を訪ね、本人や家族と面接を重ね、なじみの関係を築いている。入居されてもホームに適應できるかどうか個別性があるので、そのことも含めて家族と相談しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は家族のような関係づくりを大切にしている。お互いが毎日の生活の関わりの中から、共感的態度が生まれ、共に喜び、支えあう関係が自然に築かれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安心して落ち着いて暮らしていただけることを第一に考えている。入居者が常に「人に迷惑をかけたくない」という思いがあるので、その思いを大切に、少しでも自立した暮らしが送れるように、さりげなく支援するように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は日々の暮らしが入居者一人ひとりの意向を反映し、満足した暮らしができるように本人・家族からの情報や職員の意見を検討し作成している。また、介護計画は本人・家族へも説明し、了解を得るようにしている。		
19	39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは3ヶ月に1回、計画の評価・目標の達成度などミーティングを行っている。状況に変化があった場合は、その時点で検討し、適切な計画へ修正している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性としては認知症高齢者のデイサービスの認可を受けている。また、主治医への受診については遠距離であっても職員が必ず同行し、通院支援を行っている。ケアマネが医療職でもあるので医師の指示やアドバイスを受け、適確に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のほとんどが何らかの疾患や障害のため、定期的な通院が行われており、医師の指示もホーム内で適確に対応できている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の看取りについては医師への相談、職員・家族との話し合いを行っているが、家族の意見も色々であるので個人の状況に合った支援ができるように検討していきたいと考えている。	○	入居者は年々、身体面・精神面の低下は否めない事実である。家族は、まだまだ状況の把握が困難であると思えるので、職員はどのような状況であっても、本人が最も望む支援ができるように日頃から方針を共有し、そのための取り組みについて十分に検討してほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護については職員全員が遵守しなければならない事項であるため、新任教育の期間の研修を大切にしている。日頃の支援でも職員は常に心がけている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして1日の生活行動についての時間配分はしているが、一人ひとりのペースを大切に本人の意向を聞くことで自己決定権が持てるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者にとって楽しみの一つであるので、嗜好調査などを行い、おやつや飲み物などにも反映させている。食事介助が必要な入居者もいるが、常に一人ひとりのペースを大切に支援している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴できる状況ではあるが入浴拒否の入居者もあり、清潔の保持や全身状態の観察の点からも、週2回必ず入浴できるようにタイミングをはかり、一人ひとり、その人に合った支援を心がけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活で自分の居室は職員と一緒に掃除や片づけを行っている。男性は将棋が好きなので一緒に行ったり、女性は編み物をしたり、雑巾を縫ってもらったり、洗濯物をたたんでもらったりと、これまでの暮らしの経験や特技を発揮できるように取り組んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事への参加やホーム敷地内の散歩などを含め、戸外への外出支援を行っている。入居者は車椅子利用者が多く、あまり外出希望は多くないので、通院途中で興味ある場所へ一緒に行ったり、医院のスタッフや他の通院者との会話なども大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵をかけずセンサーによる安全策を取り入れている。居室は特に施錠希望者もなくオープンであるので、時間を見て声かけを行っている。特に今のところ支障はない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練・防災訓練を行い救急救命についても消防署の支援でホーム内で実施訓練を行っている。建物は平屋であり、避難経路は玄関を含め3ヶ所あり、出火場所を決めた訓練も行っている。近隣の協力についても協力依頼を行っている。	○	災害の発生や規模は特定できず対策については完璧ということはない。高齢者で障害がある場合はパニックになり避難誘導が困難になる場合が多いので、日頃より確実な避難訓練・誘導ができるように年間を通じた訓練を繰り返してほしい。また、職員のための誘導には限界があるので地域との連携を大切にしてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病による食事や水分摂取量の指導を受けている入居者が多く、食事摂取状況については必ず記録している。病状による特別食・水分摂取量なども医師の指示を守り、相談しながらできるかぎりの支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○ 居心地のよい共用空間づくり	共用空間は広く設計されており、ゆったりした感じである。床にはカーペットが敷き詰められ、廊下に設置しているソファは入居者同志のくつろぎの場になっている。壁には職員や入居者で作成した作品や絵が飾られ、季節感を感じていただけるように取り組んでいる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮	ベッドとローチェストはホームの備品である。他は本人の使い慣れた家具や仏壇・テレビなどを持ち込まれ、思い思いの住まいとなっている。ベッドは身体状況に合わせて起き上がり、立ち上がりに必要な柵を取りつけ、少しでも自立できるように支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			